

第 4 章

ミニ公開授業・ミニ公開検討会 (ベストティーチャー賞)



第4章 ミニ公開授業・ミニ公開検討会(ベストティーチャー賞)

1. ミニ公開授業・ミニ公開検討会

ミニ公開授業&ミニ公開検討会登録授業(前期)

授 業 名	担当教員
21世紀における人類の課題と展望 ー食の安全・安心と生活環境ー(総合)	生井 恒雄 安田 弘法
みみ・はな・のどの病気(教養セミナー)	青柳 優
春からのキョウヨウ教育必勝法(学際)	杉原 真晃
なせばなる21世紀の大問題(総合)	那須 稔雄
フィールドワーカー共生の森もがみー (総合)	柴田 洋雄

ミニ公開授業&ミニ公開検討会登録授業(後期)

授 業 名	担当教員
エレクトロニクスと社会(学際)	中川 清司
秋からのキョウヨウ教育必勝法(学際)	杉原 真晃
森林の科学(総合)	野堀 嘉裕
フィールドワーカー共生の森もがみー (総合)	中島 勇喜

ミニ公開授業・ミニ公開検討会アンケート結果

授 業 科 目 名 :

授 業 者 担 当 者 :

授 業 日 時 : 月 日() : ~ :

設問1 今回の授業の感想を自由に記述してください。

設問2 今回の授業を公開・参観して、ご自身の授業をどのように振り返られましたか。何でも、自由に記述してください。

設問3 ミニ公開授業・検討会はいかがでしたか。何でも自由に記述してください。

【前期】

ミニ公開授業1

授 業 科 目 名 : 21世紀における人類の課題と展望ー
食の安全・安心(総合)

授 業 者 担 当 者 : 生井 恒雄, 安田弘法, 粕淵辰昭

授 業 日 時 : 6月15日(金) 13:00~14:30

○参観者のアンケート

設問1 について

内容がとても(学問的に)おもしろく、あつという間の90分間でした。私たちの生活・自然に関する身近なテーマ、研究の最前線の話など、学問を通した一般教育として、大変すばらしい授業だと思いました。

授業方法も、最初に学生に考えさせる時間をとる、板書と口頭説明をうまく組み合わせる、スライド利用で視覚的な刺激を与える等、学生にとっては興味を持って、わかりやすく、考えることのできる授業だったと思います。

設問2 について

学生に考えさせる時間の保障、データを元にした科学的思考への誘い、といった点を自身の授業にさらに取り入れていきたいと思っています。

設問3 について

【後期】

ミニ公開授業1

授 業 科 目 名 : エレクトロニクスと社会(学際)

授 業 者 担 当 者 : 中川 清司

授 業 日 時 : 10月12日(金) 10:30~12:00

○授業者のアンケート

設問1 について

設問2 について

設問3 について

本講義科目は、本年度から新たに開講した科目であり、かつ参観者も他大学からの異動により、本科目の後半を分担するので、本検討会を実施することとした。また、工学部電子工学科ミニ公開授業・検討会の一環として、5項目の授業参観評価シートによる評価を実施した。学科教育改善委員会で集約し、科目間連携と教授法改善に役立てていく予定である。

○授業参観者のアンケート

参観者1 : 工学部

設問1 について

授業の要点が分かり易く、必要事項を強く暗示して学生の注意を引こうとする意図が感じられた。その意図を汲み取れない学生が多いことが残念。

学際科目は学生の興味を保つのが難しいと強く感ずる。

設問2 について

学際科目と同様の趣旨の科目を担当した経験からすると専門的内容の平易な解説にみるべき点が多くあった。

場合によっては専門的に活用できる力の醸成にも目を向ける必要性が有ると感ずる。

設問3 について

本学の教養教育の現場を知る上で大変参考になりました。

<資料>

平成 年 月 日

〇〇学部
〇〇 〇〇 殿教育方法等改善委員会委員長
中 島 勇 喜

「ミニ公開授業・検討会」へのご協力について(依頼)

教養教育では、平成12年度から、授業改善のための「公開授業」と「公開検討会」を実施しております。公開授業と検討会は授業改善のためにとても有効な方法ですが、自分の授業を不特定多数に公開し、その検討会を実施することに躊躇なさっている先生方が多いのもまた事実です。そこで、本委員会では、昨年同様、教養教育改善充実特別事業の一環として、「ミニ公開授業・検討会」を行うこととしました。

「ミニ公開授業・検討会」は、授業を公開する先生が、自分が決めた特定の日に、気心の知れた3~5人の教員(学部や専門分野は問わない)に、あらかじめ声をかけて参観してもらい、その後そのメンバーでおよそ30分程度、授業の検討会を行ってもらうものです。あくまでも授業改善のためですので、授業者が授業の改善に利用するのはもちろんのこと、参観者もその授業の良いところを発見し、自分の授業にも活かすよう心がけてもらおうとの趣旨です。本委員会としては、山形大学に「ミニ公開授業・検討会」が拡大し、授業改善が進んでいくことを期待しています。

このたび、平成19年度 期に教養教育の授業を担当されている方全員にご案内した上で、上記の趣旨をご理解いただける方に、「ミニ公開授業・検討会」にご登録していただくこととしました。登録していただいた授業を、委員会のメンバーが参観したり、検討会に出席することはありません。委員会としては、検討会終了後に授業者と参観者にそれぞれA4版1枚程度のアンケートに記入していただき、それを今後の授業改善の資料にさせていただきたいと考えています。アンケート項目としては、授業者と参観者に共通の3つです。

- ① 今回の授業の感想を自由に記述してください。
- ② 授業を公開・参観して、ご自分の授業をどのように振り返られましたか。
- ③ ミニ公開授業・検討会はいかがでしたか。

この「ミニ公開授業・検討会」にご協力いただける方は、下記に公開日時と参観者名を記入の上 月 日 () までに学生センター1階入口横の高等教育研究企画センターBOXへご提出ください。公開日時が未定の場合はその旨お書きください。また、実施当日に参観者が変更になっても構いません。なお、登録いただいた方には、後日、「ミニ公開授業・検討会」のアンケート用紙をお届けします。

登録いただいた授業を事前に学内に案内することはありませんが、授業改善に興味のある方に幅広く公開して実施されることをご希望の方は、下記の記入表の欄にチェック印をつけてください。

また、昨年度の様子については、平成18年度本委員会報告書「教養教育 授業改善の研究と実践」P.239~をご覧ください。(お持ちでない方は、高等教育研究企画センター(内線4707)までご連絡ください。)

----- 切り取り線 -----

私は「ミニ公開授業・検討会」を以下のように実施する予定です。

所属：〇〇学部 氏名：〇〇 〇〇

[〇〇〇〇] 〇〇〇〇〇〇

実施日時：平成 年 月 日 () 校時

参観予定者：

この授業は、参観予定者のほか、参観を希望される方に広く公開します。

<資料>

平成 年 月 日

「ミニ公開授業・検討会」登録教員 各位

教育方法等改善委員会委員長

中 島 勇 喜

「ミニ公開授業・検討会」の授業者と参観者に寄せて

このたびは、「ミニ公開授業・検討会」の実施にご協力いただき、ありがとうございます。ご存知のように、「公開授業・検討会」は、授業者のみならず、参観者の授業改善においても、とても有効な方法です。

しかしながら、授業方法と同じように、「公開授業・検討会」の最善の実施方法は、いまだ確立されておりませんし、多様な授業方法がある限り、これからも確立されるとは思いません。本委員会としても、方法論についてはこれからも研究を積んでいかなければなりません。授業改善の方法として有効に活用されるならば、多様な方法があつてしかるべきだと考えております。どうか、ご自分流の方法を編み出してご教示いただければと思います。

そうした前提を踏まえた上で、「ミニ公開授業・検討会」が、より実りあるものになるように、ここではこれまで本委員会で研究して参りました、「ミニ公開授業・検討会」を実施するに当たっての留意点を、別紙のようにまとめました。ご参考になれば幸いです。

なお、検討会の終了後に、別添のアンケートを授業者と参観者にご記入いただき、学生センター1階入口前・高等教育研究企画センターBOXへお届けくださいますよう、お願いします。

<資料>

「ミニ公開授業・検討会」を実施するに当たっての留意点

1 今回の「ミニ公開授業・検討会」が終了した後、授業者が授業の改善に利用することはもちろんのこと、参観者もその授業の良いところを発見し、自分の授業にも活かすよう心がけてください。

「また自分の授業を公開しても良い」「今度は自分の授業を公開しよう」といった積極的な姿勢を持てるような、内容のある、明るいムードの「ミニ公開授業・検討会」としてください。

2 授業者は、普段どおりの授業を心がけてください。参観者は授業に介入しないよう、参観する位置についても考慮してください。なるべく、学生の注意が参観者に向かないことが望まれます。

3 参観者は、学生と一緒に授業だけに集中しないでください。大切なのは、授業中の学生の反応です。授業の内容や授業者の行動の変化によって学生は敏感に反応しているはずです。学生は、どのような時に授業に集中し、どのような時に集中力を失っているのでしょうか。

また、今回参観した授業が、15回分（初修外国語の場合は30回）の1回だということに留意してください。今回の授業がその授業の全体ではありません。それと同時に、授業は、それまでに築き上げられてきた学生との関係によって成立していることも忘れないでください。

4 教室の環境などにも留意してください。授業の大切な構成要素です。

5 検討会では、参観者が授業を褒めることから始めてください。授業者のコメントから始めると、ひたすら反省の弁を述べ続けることになる恐れがあります。最初に授業を褒めることが、その後の授業の分析や批評の妨げになることはないはずです。

<資料>

「教養教育ミニ公開授業・検討会」アンケート

授業改善の資料としますので、以下のアンケートにご協力ください。

山形大学教育方法等改善委員会

授業科目名：『

』

授業担当者：(

)

所属等 (授業者 ・ 参観者)

所属：()

氏名：()

参観日時： 月 日 () 時 分～ 時 分

- 1 今回の授業の感想を自由に記述してください。
- 2 今回の授業を公開・参観して、ご自身の授業をどのように振り返られましたか。何でも、自由に記述してください。
- 3 ミニ公開授業・検討会はいかがでしたか。何でも自由に記述してください。

ご協力ありがとうございました。

学生センター1階入口前・高等教育研究企画センターBOXにご提出ください。

2. ベストティーチャー賞

はじめに

どのようなことでも改善していく作業は楽しい。授業の改善も本来楽しい作業である。ところがFDと聞くとなんだか楽しくないと思ってしまう人もいる。確かにFDにはそうした側面もある。組織的という名で研修会が開催されたり、定型化された授業評価アンケートがあるからだ。自分で自由(勝手)にそうしたことを行えないからだ。いや、実際には誰も個人的な自由な授業改善を否定してはいない。逆に、組織としても推奨しているのだ。そうした個人的な営為と同時に組織的な授業改善FDを併設しているだけだ。そして個人的に授業改善の成果があらわれたならば、自分に留め置くのではなく、他の人たちにもその工夫を見せて欲しいのだ。それが本学のFDの理念である相互研鑽であるからだ。

いずれにしても、改善というと改善していないものの尻を叩いて改善を強要するように捉えられがちである。実際には、改善を進めている人たちを顕彰することの方が、組織的な改善を進めていく上で有効である。イソップ物語の「北風と太陽」のように。

他大学ばかりでなく本学の中においてもすでに「ベストティーチャー賞」というような顕彰制度が普及している。これは組織的に改善を進めていく上でなかなか良い制度である。そこで本学の教養教育においても遅まきながら今年度からこの制度を取り入れることになった。内容の詳細は以下の実施要項を参照していただきたいが、初めての「ベストティーチャー賞」はこれまで数年間に亘ってずっと素晴らしい授業を展開してきた教員からの選抜ということになった。すなわち単年度ではなく、過去3年間に亘っての「ベストティーチャー」である。であるから、今年に選ばれた「ベストティーチャー」はなかなかすごい人たちなのである。

来年度以降はこの「ベストティーチャー」の選考基準は単年度に改定されることになっている。

この「ベストティーチャー賞」の特色は、その対象者に非常勤講師を含めたことにある。学生から見ると非常勤講師の方々も正規の教員と同等の役割を果たしている。そうした方々も顕彰していきたいと我々は考えた。今回推薦された非常勤講師の方はおられなかったが、これから非常勤講師の方が選ばれることもあるだろう。それに相応しい方もすでおられるからだ。

教養教育に従事している数百人の教員の中から「ベストティーチャー」を選ぶことは至難の業である。選考基準も難しい。おそらくどのような基準にしてもどこからか不満がもれてくるはずである。そうしたことを踏まえて今回は、推薦人3名(新人賞は2名)の推薦理由を付した推薦書の提出によるエントリー制度を設け、その候補者の中から委員会を選んだ。

要望だが、次年度から推薦者にはあらかじめ推薦する教員の授業を一度は参観しておいて欲しい。「学生による授業改善アンケート」の得点だけが「ベストティーチャー」の評価基準ではないことは自明のことだからだ。推薦する教員

の授業を参観して複合的な観点から自信を持って推薦してきて欲しい。

「ベストティーチャー」には副賞として一人につき30万円、「新人賞」には10万円が研究費として渡された。全国的に見ると決して多い額ではないが、研究や教育に役立てて欲しい。

良い試みは継続することが大切だ。この「ベストティーチャー賞」は来年度以降も実施することが決まっている。是非とも奮って応募していただきたい。学部や学科等の組織単位でなく個人的に推薦してもらっても結構である。

少し照れくさいかもしれないが、あなたも「ベストティーチャー」になって素晴らしい授業を全学に公開して欲しい。それは山形大学の貴重な財産となる。



ベストティーチャー賞受賞者

人文学部 池田 光則 准教授

300人規模の大人教講義において、授業内容の工夫により多くの受講者から質の高い授業として高い評価を受けています。特に、質問カードに記載されたすべての質問に対し、毎回丁寧に文書で回答するなど、労力を惜しまず授業改善が行われています。

地域教育文化学部 竹田 隆一 教授

スポーツ実技の授業「武道」、「レクリエーションスポーツ」等、担当授業は常に高い総合評価を受けています。また、外国人留学生向けのJapan Studies Programにおいても、日本古来の「武道」の授業コンテンツ化等に努力されています。

理学部 佐野 隆志 准教授

これまで最も人気の低い理系向けの微分積分学を担当

し、難解な数学を分かりやすくかつ基礎学力が身に付くように授業方法を工夫してこられました。授業改善アンケートにおいても、常に総合評価が4.0以上となっており、受講学生の信頼を得ていることを示しています。

理学部 尾方 隆司 教授(公開授業のみ)
玉手 英利 教授
高等教育研究企画センター 蜂屋 大八 係長
山際 良弘 係員

ベストティーチャー新人賞受賞者

人文学部 講師 森田 光宏

専門の英語教育学の知見を活用して、従来型の「自ら考える」英語教育の上に、体験型の「自然に身に付く」英語教育の手法を考案し、授業で実践されています。これらの英語学習法の工夫により、これまででない学習の楽しさや自宅学習時の閉塞感が解消され、受講学生から高い評価を得ています。



公開授業・懇談会 日程

【公開授業】

日時：平成20年1月11日(金)14:40~16:10
講義室：222番講義室(教養教育2号館2階)
授業名：言語学とその周辺
担当教員：池田 光則(人文学部准教授)

【懇談会】

日時：平成20年1月11日(金)16:20~16:50
会場：212番講義室(教養教育2号館1階)



懇談会記録

出席者

授業者 池田 光則 准教授
参加者 小田 隆治 委員
浅野 明 委員
水戸部修治 委員
脇 克志 委員
黒 沼 毅 委員
人文学部 阿子島 功 教授(公開授業のみ)
阿部 八郎 教授
元木 幸一 教授
佐藤 清人 教授
鈴木 亨 准教授
森田 光宏 講師

○授業の概要報告

- ・教室に入って、まず300人の受講生の数に圧倒された。
- ・「はい、静かに」という声かけを適切に行い、それがイヤミではない。
- ・配布資料にページが記され、授業内でも適切な指示が行われていた。
- ・板書は4行で大きな文字で行われ、後ろの席からでも読みやすい。
- ・授業中で一度、長い表を板書する場面があった。
- ・講義時間を通してずっと静かに講義が行われ、学生は板書を書き写すスタイル。授業の構造化がなされていると感じた。

○授業者の感想

- ・今日のように時系列で見ていただくと、自分の授業が客観的によく分かる。
- ・私は、今日の1コマ目にも全く同じ授業をやっているため、1コマ目の授業での反省点を活かして、今回の授業をやっている。
- ・今日は普段より受講生が多かった。今までの授業では映像を多く見せてきたが、今日の授業(9回目)で、はじめて映像がなかった。このために学生の集中力がやや落ちたかと思う。
- ・「長い表」については、私の授業では、配付資料には例示や資料を載せ、必要なことは板書か口頭で伝えている。また、できるだけ板書を多くし、口頭説明は少なくしている。この表についてはどうしようか迷ったが、このようなことから板書とした。
- ・私語はあったが、これでも普段よりは少ない。提出カードの裏には、「私語を取り締められ」「退出させろ」というコメントもあり、こまめに注意するようにしている。

○参観者の感想

(参観者1)

- ・本学に採用になって2年目ではじめて他の先生の授業を見た。あのような大人数の中で、あのような授業を行われることに驚いた。特に、学生の興味・関心を惹きながら、迎合することなく、解説が明瞭で、後ろの席で見えてもよく

理解できた。そのことが、集中力を途切れさせない秘訣かと感じた。

・受講生が少ない時には、例えばペアにして対話させるとかもあるが、この授業の学生はみんなすごく一生懸命メモを取っていたので、そこに自分で記述させることも良いかと思った。そうすると学生も良いアイデアを出すのではないか。

・全体的にはとても素晴らしい授業で、自分もいつかこのような授業をしてみたいと感じた。

(参観者2)

・私語について、あれだけの学生がいても静かなことに驚いた。全体的に良い意味でコントロールされているのだろうと思う。それは、池田先生への尊敬の念から来ているのではないか。そしてその尊敬は、資料から来るものと思う。ここまでやるものかと、個人的には打ちのめされた。学生にも、そういう先生の裏の努力が伝わるんだろうと思うし、そういうところを見て、自分なりにきちんとしていかなきゃと思うところに、他の授業との違いが出ているのではないか。

・1回の授業の準備にどれだけの時間を要しているのか？

(回答)ここ数年はほぼ同じ内容なので、それほどの時間はかかっていない。一番時間がかかるのは、アンケートを取った時の集計作業だった。

(参観者3)

・300人を超える授業で教育効果をあげるのは難しいことだと思うが、それでも学生による授業評価で破格のポイントをあげている池田先生の授業を、一度みてみたいと思っていた。

・大人数授業では、導入の時にいかに静かにさせるかと、途中での学生の関心を惹くかが大事だと思うが、この授業ではそういったことが全てなされていた。導入時点では学生に手元で何らかの作業をさせる等のことを意識的にさせている。cueで、学生の関心を惹くために「〇〇を見なさい」という指示が、ほぼ5分おきに出されていることは、素晴らしい。

・前職の時に成績の悪い学生を対象として、中間休みをとることは効果があるかを調べたことがある。効果はあるが、この大学ではなかなか取りにくく、実践していない。しかし、今日の授業を見て参考になったので、自分の授業でも取り入れてみたい。

・15:50頃に、話を聞いていない学生が出てきたが、長い板書をするので取り戻した。集中力を維持するには、板書させることが効果的と感じた。

・質問カードを実際に回って集めているのはなぜか？

(回答)不正防止のため、実際に回ることのできる圧力になると思う。それでも、実際の数より多くの枚数が集まっている。

・自分の授業にどう活かせるか。生物科学を教えているが、パワーポイントの使用が多くなってきている。板書との併用が難しいが、今日の授業を見て、実際に手を動かして学生に書かせることは良いことだと感じた。学生サービスの

向上のために、パワーポイントのハンドアウトを配布している人もいるが、あえて配付資料に載せずに、書かせることも重要だと思う。

・予想よりも内容が少ないと感じた。欲張って詰め込みがちだが、今の学生ならあの程度がバランスが良かったのではないか。自分の授業でも、情報量を調節した方が効果的だと感じた。

(参観者4)

・ショックを受けて、自分の授業を公開するのをやめたいと思った。学生の提出カードに対するコメントが良いと感じた。大人数の授業では、いかに学生を「個人」にさせるかが大事だと思う。自分が「その他大勢」ではなく、「授業の成員」になっている。アンケートの「1ポイント」になっていると感じさせるためには、質問にきちんと答えてあげることが大切ではないか。大変だと思うが、学生の意見を取り入れることは素晴らしいと感じた。

・指示が具体的な点も素晴らしい。そうすると学生は迷わずに済む。教える方も手順に従っていれば、このレベルまではいくだろう。15回の授業ではここまで行くだろうという予測がつくし、学生を裏切らない。学生に対する指示一つをとっても、その裏に大きな流れがあって、その一つの現れだと思う。

(参観者5)

・学生の質問への回答は、自分も毎回やっている。学生から出されるものには、質問、意見など内容が分かれると思うが、質問には全て答えられているのか。中には質問の内容がハッキリしない人もいて、答える方も曖昧になってしまうが、学生の反応はどうか。

(回答)そのような場合には、たいがい次の回でもう一度書き直して質問してくる。

(参観者6)

・前回の公開授業の時も感じたが、やっていることは非常にオーソドックスで、極めて普通の授業と感じた。それでも学生が集中して聞く様子を見ると、授業で大切なのは何かということを考えさせられた。

・授業の始まる前から学生を見ていたが、当初しゃべっている学生も、授業が始まって、進んでいくに従って、だんだん授業に入ってきていた。

・ノートと板書の関係について、板書をやりすぎると学生は疲れる。例えば、配付資料の要所を抜いて、板書でそこに書かせる。それを説明する。ということで集中力を維持できるのではないか。パワーポイントを使うと板書をしなくなる。

・資料については、自分も新聞を読んで、四六時中題材にできるものはないかと考えている。池田先生も日ごろから努力されているのだろうと思う。

・前の時間の学生の質問に答えてはじめて、その授業は完結すると考えている。だから、学生には、質問への回答の時間を無駄だと思うなと伝えている。他の人の質問を聞

いて、自分の間違いに気付くこともある。

(参観者7)

・寝ている学生は3人、最大で16人だった。

・授業評価のポイントの低い授業を見たが、普通の授業を普通にやられているので、これが評価の悪い授業なのかと思ってしまう。その違いは小さいことではないか。例えば、字の綺麗さ、字の大きさ、声の出し方など、そういった小さいことが積み重なって、2ポイントの差になっているのであって、実際の授業にさほどの違いはないと思う。時々、そういったことに注意するだけで、授業の改善は充分図れるのではないか。

(参観者8)

・池田先生はベストティーチャーになったのですが、実際の授業のノルマは英語のみ。ノルマになっていないこの授業で、このようなレベルの高い授業をされているということ。成績を付ける段階での学生のレベルは、先生にとって満足のいくレベルに達しているか？

(回答)満足のいくレベルではない。自分自身、もう少し、良いやり方があるのではないかと思う。

○授業者から一言

・以前、教育方法等改善委員会から授業改善のエッセイの執筆を依頼されたが、書けなかった。自分自身、授業を「改善」しているという意識があまりない。こうやるしかないというところでやっている。今日はみなさんにいろいろな良いコメントをいただいてありがたかった。少し自信を持ってやっていきたい。

公開授業・懇談会アンケート結果

設問 1 今回の授業の感想を自由に記述してください。

設問 2 今回の授業を公開・参観して、御自身の授業をどのように振り返られましたか。何でも、自由に記述してください。

設問 3 公開授業・検討会はいかがでしたか。何でも、自由に記述してください。



○授業参観者のアンケート

参観者 1 : 人文学部

設問 1 について

前回の数学の授業でも感じましたが、構成も内容も、授業の進め方もいずれをとってもオーソドックスなもので、本当に大切なものがなんであるかを、あらためて確認させられました。

設問 2 について

資料の利用と板書のバランスなどについて考えさせられるところがありました。

設問 3 について

もう少し広く宣伝して、ある程度義務として出席してもらうことも必要かと思います。公開授業だけでなく、この委員会の活動(行事)全般について言えることですが・・・。

良し悪しは別として、とにかく他の教員の授業をみるのが大切であると思いますので。

参観者 2 : 人文学部

設問 1 について

大教室だったが、文字が大きく、きれいで見やすかった。声の調子も、ゆっくりで、聞きやすかった。

5分間の休み時間をとるのも、教員・学生両者の気分転換によいと思った。

設問 2 について

私も大教室の授業がある。大きい字を使っているつもりだが、もっと大きい字を書いたほうがよいと思った。

5分間の休み時間も、話題転換の時にとることがあるが、毎時間とった方がよいと思った。

設問 3 について

私語の件 私の場合、私語がないと思いながら授業しているが学生から、私語があるという意見がある。



参観者 3 : 人文学部

設問 1 について

自分にはとてもまねできないという意味で、次の2点に関して、かなりショックを受けました。1つには、ふだん自分があれほどの大人数を相手にする授業を担当していないこともあり、あれだけの学生を良い意味でそれなりにきちんとコントロールできているということ。もう1つは、資料を中心に、授業の準備に向ける労力がものすごいものであろうということです。

学生のコントロールという点では、池田さんの毎回の授業に向ける真摯な努力が(部分的にであれ)学生にも伝わっていて、そこから生まれる教員への敬意のようなものが少なからず反映されているのではないかと思います。やはり、教員側の授業における努力や熱意は、適切な形で表現され

れば、それなりに学生にも伝わり、教育効果をもたらしているものだというのを改めて認識させられました。質問への回答も含め、資料等の準備については、池田さんの個人的な努力は想像を絶するものがあります。ともかく、時間をかけて授業の構成等を考えて準備することに加えて、ふだんからアンテナをはって、授業のネタになりそうなものをまめに収集する努力をもっとしなければ、と刺激を受けました。

講義の内容(授業で伝えられる情報)に関しては、自分の専門(英語学)に近いこともあり、良くも悪くもごく常識的な範囲・深度で、分量的にもかなり禁欲的に教えているなあという印象を受けましたが、授業後の懇談会でのやりとりで、それらの授業スタイルは、教養教育であることなどを配慮して、十分に意図的に選択されていることがわかり、納得しました。個人的な好みでは、もう少し教科書的な常識からはずれて、あやうい内容に踏み込んで、学生を知的に挑発してもいいかもしれない、という気もしましたが、一方で、自分の経験からも、確定的な正解を求めたがる最近の学生の気質やあの受講者数を考えると、やはりそれも難しいかなあとも思います。

個人的にやや心配になった点としては、あれだけ豪華で充実した資料を提供される学生の方は、はたしてどれほどそのありがたみを理解できているのか(授業後にちゃんと読んで、教員の意図に沿った理解をしているのか)、それを池田さんがそれなりの手応えとしてちゃんと感じられて、さらなる授業に向けた意欲の源泉となっているのだろうか、というところです。もちろん、授業評価アンケートの結果を見れば、他の多くの講義に比べて、池田さんの授業が多くの学生から非常に高く評価されていることは明らかなのでしょうが、それでもなお、学生からの評価は、池田さんの労力に本当に見合ったものなのかどうか。つまるところ、専門分野の近い同業者としてのつまらぬ老婆心から、池田さんのがんばりを、大いに尊敬すると同時に、少し心配になってしまったわけです(池田さん、つまらないことを書いてどうもすみません)。

ついでにもうひとつ、懇談会でうかがったところでは、講義の基本的内容や構成は、この5年くらい(?)でほぼ固まってきているというお話だったので、このあたりで「教科書」としてまとめて、それを利用すれば、より効率的で、かつ柔軟な授業スタイルをとることができるのではないのでしょうか。教科書として出版するに値するたいへん充実した講義内容であると思います。従来の言語学入門のような教科書に比べて、データや資料の充実度(おもしろさ、的確さ、バランスなど)において、群を抜いたものになるのではないのでしょうか。個人的にも、ぜひ読ませていただきたいと思っています。

最後に、あれだけの大人数が相手であることを考えれば、池田さんはまったく文句のつけようのないとても立派な授業をされていたと思いますが、やはり、生身の教員が大学でやる講義としては、受講者の数が多すぎると思いました。時間帯等の事情もあるかもしれませんが、どんなに優れた内容の講義でも、このような人数を相手に行うのは、教員側に負担(授業内容とは直接関係ないところで、学生をコントロールしなければいけないという余計な労力)が大き

ぎると思います。この点で、カリキュラム全体の改善が必要であると思います。

設問2について

1の項目で書いたことに重複しますが、授業の準備に向けた真摯な姿勢を見習いたいと反省しました。

設問3について

長年のつきあいのある同僚でも、教室での(いい意味での)知られざる姿を見ることができて、興味深く、また刺激的な体験でした。懇談会での他の教員の意見も、いろいろと参考になりました。

今回の公開授業の告知は直前だったようですが(私が知ったのは3日前)、もっと余裕をもって周知すべきではなかったかと思えます。

参観者4 : 地域教育文化学部

設問1について

多人数授業ながら、最後まで学生の集中力も高く、素晴らしいと感じました。

特に学生の興味、関心を踏まえつつ、明快な解説と豊富な具体例が示されていた点、とても参考になりました。

最後列で参観いたしました。板書も見やすく、学生の理解の助けになっていました。

設問2について

自分の担当する授業の受講生は、多くても50人です。本日の授業のような、多人数でも学生をひきつける授業をめざしたいと思いました。

特に忙しい中でも大変充実した資料作成に学びたいと思います。

設問3について

授業がとても素晴らしかったので、充実した研修の機会になりました。

参観者5 : 理学部

設問1について

学生の集中力を維持させるための工夫が良くなされていて、すばらしい授業だと思いました。

設問2について

板書の効果を見直しました。私の授業(通常はほとんどパワーポイント)でも活用できると思います。

設問3について

以下の2点は私の授業でこれまで考えたことがなかったことなので、たいへん参考になりました。

①1時間分の授業内容を適切な量にする。

②板書の量、色を工夫する。

参観者6: 理学部

設問1について

大量の資料で授業の中身の濃さを保証し、一方丁寧な大きな文字でゆっくり板書しながら説明するので学生にとっては大変分かりやすい授業として評判が高い理由が分かった。

設問2について

できるだけ多くの事柄をということであまり早く、草書になってしまいがちだが多分これでは学生はついてこれてないだろうと思う(反省多)。

設問3について

参観者7 : 理学部

設問1について

- ・板書がたいへん見やすい。
- ・学生にちょっと考えさせる問題を出し、学生を受け身から主体者になっている。
- ・アンケートを通して、学生の考えを授業に取り入れている。

設問2について

- ・学生を受け身にさせない授業になる様に、学生からのフィードバックを利用したい。

設問3について

【公開授業】

日 時 : 平成19年12月4日(火)14:40~16:10

講義室 : 133番講義室(教養教育1号館3階)

授業名 : 微分積分学2

担当教員 : 佐野 隆志(理学部准教授)

【懇談会】

日 時 : 平成19年12月4日(火)16:20~16:50

会 場 : 133番講義室(教養教育1号館3階)



懇談会記録

出席者

授業者 佐野 隆志 准教授

参加者 小田 隆治 委員

理学部 河村 新蔵 教授

理学部 佐藤 圓治 教授

理学部 水原 昂廣 教授

理学部 尾方 隆司 教授

高等教育研究企画センター 杉原 真晃 講師

山際 良弘 係員



検討会での議論の内容

○授業の雰囲気について

・静かである。

→(佐野)シラバスに携帯電話の電源を切ること、受講態度の悪い人は受けなくてほしいことを書いているため。一年生はお願いしてもまだ我慢してくれる。また、一年生は学生生活にまだ慣れていないので、一年生のうちにルールはルールとして守ってもらうよう要請します、と全授業でやってもいいのでは。

・寝る学生がほとんどいない。

・内容が理解できているから寝ないのではないかと。

・板書をしっかりと写している。

→(佐野)大きな声で話している。学生には「ノートを取れ」、「手が勉強する」と言っている。この学科が一番板書をしているのではないかと。

○授業の進め方について

・休憩を途中で入れている。

→(佐野)高校生あがりの一年生にとって90分は長い。2~3分の休憩をいつも入れている。学生の反応もよい。休憩前に演習問題を与えて、休憩を入れて、解けない人は休憩中もやっていて、休憩後にその問題の解説を行う。

・休憩、今週の授業の到達点、次週の授業内容等の予告を行っている。

・授業の最後に小さな紙を配り演習問題をさせ、提出させる。一方で、休憩後に名前を呼んで出席をとる。

→(佐野)小さい紙はいろいろな解答があれば次回に紹介する。最後に用紙を提出するにもかかわらず途中で名前を呼んで出席を取るの、「何かある」ことがわかるため。つまり、座る場所が固定化してくるにあたり、演習課題等と対応させることで、授業内容を理解していて別に聞かなくていいから後に座っている、あるいは本当にわからないから後に座っている等を理解するため。

○板書について

・黒板を三等分している。

→専門科目では四等分している。

・字がきれい。

・板書がわかりやすい。

→(佐野)内容のレベルは高い。

○教育内容および評価について

- ・実力がついているのかどうか。
- ・工学部の学生(本授業は工学部の学生が対象)は入学が多様であり、基礎知識がバラバラである。
→(佐野)「試験に出る」、「前にやりました」等、記憶させるように言っている。宿題は時には出すが、授業内で教科書内の問題はほぼすべてさわっている。
- ・本授業に関しては、同じテキストを使用して、同じ内容の授業を複数の教員で担当している。進度もだいたい同じ。必修である。
- ・他大学では、プレースメントテストを実施し、成績の低かった群には週2回の授業を行っている。そうすると、半期が終わった時点で行う共通テストでは週2回授業を行った群の方が良い成績をとるようになる。
- ・共通テストは現在実施していないが、最後に学習の意味を持たせるためにも良い方法かもしれない。

公開授業・懇談会アンケート結果

設問1 今回の授業の感想を自由に記述してください。

設問2 今回の授業を公開・参観して、御自身の授業をどのように振り返られましたか。何でも、自由に記述してください。

設問3 公開授業・検討会はいかがでしたか。何でも、自由に記述してください。



○授業参観者のアンケート

参観者1：理学部

設問1について

学生の動きを見ながらペースを決めている。
先を急がずにいねいに進めている。

あえて、細かい説明はせずに(教科書にあるので)全体を理解させている。

設問2について

自分の講義はなんて忙しいのか。教科書を見れば書いてある事を細々と言う事で、学生に考える時間を与えていないことに気付いた。

設問3について

参観者2：理学部

設問1について

黒板の字が大きくきれい。私のはいつも小さいと言わ

れる。

設問2について

プリントで十分サポートしていると思われる。できたらそのプリントも参考にしたい。

設問3について

参観者3：理学部

設問1について

- 1) 板書が、後ろからも見やすい(字の大きさ、空間がよい)
- 2) 授業を受けている人は「生徒」ではなく「学生」ではないかと思えます。
- 3) 「休憩」については、学生は、どんな感想をもっているのでしょうか？

設問2について

- 1) 私の場合は、 $u = \tan(x/2)$ を u で微分のとき、 $x/2 = \arctan(u)$ として u で微分した方が見やすいと思うので、その方法を用いる。
- 2) 私の場合は、マイクを使用する。
- 3) 板書の仕方は参考になった。

設問3について

いろいろな話が出て、参考になった。



参観者4：理学部

設問1について

声が非常に良く通り、聞きやすかった。板書も読みやすかった。説明が手短になるように配慮していた。途中で休憩(5分間?)(+出席の点呼(5分))を入れたのが良い。

悪い点はとくに見つけられなかった。

設問2について

自分の授業スタイルと違うスタイルであると思いました。

私はその都度、レジメと演習問題を配付し、90分の内、20分位を演習にあてている。

大いに参考になった。

設問3について

数学を担当している教員4名(+佐野さん)に、他分野の教員2名の懇談会は、有意義であった。

特に配付するレジメの内容をどの位、詳しいものにするかが、問題となった。詳しくすぎると学生がノートを取る意欲がなくなって、デメリットであるからである。

参観者5：その他

設問1について

学生にフレンドリーでコミュニケーションしようとする雰囲気が大変よかった。

先週の授業内容と今週の授業内容、そして次週の授業の伝達や休憩時間の予告など、授業内容やタイムマネジメントがよく構造化されており、学生にとってわかりやすく、集中しやすい授業だったと思います。

設問2について

授業全体の中での「今」の位置づけ、学問領域の中での「この概念」の位置づけを明確にして、学生に伝えていかなければならないと思った。

設問3について

数学者同士の議論が非常に興味深かった。

参観者6：その他

設問1について

ゆっくりのスピードで分かりやすいと思います。

黒板を分けるのもとてもいいと思います。

公開授業だからか、それとも普段からなのか、学生がとても静でした。時間配分等もよかった(教養の授業として)

設問2について

設問3について

参観者7：その他

設問1について

声が大きく聞きやすい。全体的に明るい。高圧的なところが全くない。

学生は前の席からびっしり座っている。

寝ている学生がほとんどいない。(77人のうち)3時10分2~3人, 3時40分0人, その他の時間1~2人

私語が全くない。

最初から最後まで勉強する姿勢が続く。教員と学生の間で暗黙のルールがあるように見える(不思議な空間)。ただし、学生とのやりとりはない。

設問2について

設問3について

参観者8：その他

設問1について

板書の量は少ないものの説明量が多くてわかりやすいのでは。

中休みを入れる予告をして中だるみを防いでいたのか?

中休み近くには板書の字が小さくすくなっていた。

高校であつかわれないという途端に顔を上げた。

設問2について

設問3について

他ジャンルの人も見習うべき点は多いと思います。見るポイントを持って臨むとより有効かと思いました。

参観者9：学生

設問1について

約2,3年振りに佐野先生の授業に出席させていただき

ました。

教育実習のときのことを思い出しました。

設問2について

一学生なので、授業を受ける側の視点が多くなりました。

「復習」と「休憩」と「演習(毎回)」は大事だと思いました。

設問3について

先生に教えてもらうまで、この公開授業の存在を知りませんでした。

学生である者が、出席してもよかったのでしょうか。



<資料>

平成19年度山形大学教養教育ベストティーチャー賞実施要項

平成19年度山形大学教養教育ベストティーチャー新人賞実施要項

山形大学教育方法等改善委員会

○趣旨

教養教育において、これまで多くの学生に支持され、質の高い授業を提供してきた優秀な教員に「ベストティーチャー賞」を授与し表彰する。また、近年、本学に採用された新任教員のうち、教養教育において優れた授業を提供している教員に「ベストティーチャー新人賞」を授与し表彰する。

(注) 来年度以降は、年度ごとに選考することが考えられる。

○賞

ベストティーチャー賞及びベストティーチャー新人賞とする。

■ベストティーチャー賞

◎対象者

次の各号に該当する者

①平成16年度から平成18年度の各年度において、一つ以上の教養教育の授業を担当した者（非常勤講師を含む。）

②別添「平成19年度山形大学教養教育ベストティーチャー賞候補者推薦書」に基づき、三名以上の本学の教員から推薦を得た者（推薦者は、当該推薦について本人の了承を得ておくものとする。）

③平成19年度において本学に在職している者

ただし、教育方法等改善委員会（以下「改善委員会」）委員は対象外とする。

◎選考方法

①賞の選考は、改善委員会が行う。

②改善委員会は、推薦書、授業改善アンケート、履修登録者数、教育方法の工夫・改善、教養教育改善充実特別事業（FD）の参加・貢献等を勘案し、選考を行う。

③受賞者の決定にあたっては、応募件数、科目区分、領域を考慮し、3名以内を選出する。

■ベストティーチャー新人賞

◎対象者

次の各号に該当する者

①平成16年4月1日以降に本学に採用された者

②平成19年4月1日現在で40歳未満の者

③平成16年度から平成18年度の一つ以上の教養教育の授業を担当した者（非常勤講師を含む。）

④別添「平成19年度山形大学教養教育ベストティーチャー新人賞候補者推薦書」に基づき、二名以上の本学の教員から推薦を得た者(推薦者は、当該推薦について本人の了承を得ておくものとする。)

⑤平成19年度において本学に在職している者
ただし、改善委員会委員は対象外とする。

◎選考方法

①賞の選考は、改善委員会が行う。

②改善委員会は、推薦書、授業改善アンケート、履修登録者数、教育方法の工夫・改善、教養教育改善充実特別事業(FD)の参加・貢献等を勘案し、1名を選出する。

○表彰

受賞者には、表彰状及び副賞として下記の研究費を贈呈する。

ベストティーチャー賞 30万円

ベストティーチャー新人賞 10万円

○応募方法

期限までに、全ての事項に記入した推薦書を、以下の応募先に持参または郵送する。

応募先 山形大学高等教育研究企画センター事務室
(インフォメーションセンター2階)

締切 平成19年7月6日(金)17時

「推薦書」の様式は、教育方法等改善委員会のホームページ「豊かな授業を目指して」からダウンロードの上、記入する。

豊かな授業を目指してー山形大学による授業改善の取組ー

<http://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/kaizen/ksite/index.html>

○その他

ベストティーチャー賞及びベストティーチャー新人賞受賞者には、素晴らしい授業の共有化を図るため、平成19年度後期あるいは平成20年度前期の授業で公開授業を実施していただく。

(本件問い合わせ先)

山形大学高等教育研究企画センター

Tel 023-628-4707

Fax 023-628-4720

E-mail k3cen@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

<資料>

平成19年 月 日

山形大学教育方法等改善委員会委員長 殿

平成19年度山形大学教養教育ベストティーチャー賞候補者推薦書

候補者氏名 (歳)

所属 職名

電話

メールアドレス

私たちは、上記の教員を、平成19年度山形大学教養教育ベストティーチャー賞候補者として推薦します。

推薦理由	
平成16年度 担当科目名	
平成17年度 担当科目名	
平成18年度 担当科目名	

推薦者名 所属 職名 氏名

推薦者名 所属 職名 氏名

推薦者名 所属 職名 氏名

(署名は、自筆のこと)

<資料>

平成 19 年 月 日

山形大学教育方法等改善委員会委員長 殿

平成 19 年度山形大学教養教育ベストティーチャー新人賞候補者推薦書

候補者氏名 (歳)

所属 職名

生年月日 昭和 年 月 日生

本学への採用年月日 平成 年 月 日

電話

メールアドレス

私たちは、上記の教員を、平成 19 年度山形大学教養教育ベストティーチャー新人賞候補者として推薦します。

推薦理由	
担当科目名	平成 年度
	平成 年度
	平成 年度

推薦者名 所属 職名 氏名

推薦者名 所属 職名 氏名

(署名は、自筆のこと)

<資料>

平成19年度山形大学教養教育改善充実特別事業

ベストティーチャー賞受賞者公開授業

教育方法等改善委員会で実施した、ベストティーチャー賞受賞者及び
ベストティーチャー新人賞受賞者の公開授業を行います。

《公開授業》

日時 平成20年1月11日(金) 14:40~16:10

授業名 一般教育科目 文化・行動領域 言語学
『言語学とその周辺領域』

授業者 人文学部 池田 光則 准教授

教室 小白川地区 教養教育2号館2階 222番教室



《懇談会》

日時 平成20年1月11日(金) 16:20~16:50

会場 高等教育研究企画センター ミーティングルーム

内容 上記の授業を参観後、当該授業に対する懇談を行う

《公開授業》

日時 平成19年12月4日(火) 14:40~16:10

授業名 一般教育科目 数理・物質領域 数理科学
『微分積分学2』

授業者 理学部 佐野 隆志 准教授

教室 小白川地区 教養教育1号館3階 133番教室

《懇談会》

日時 平成19年12月4日(火) 16:20~16:50

会場 高等教育研究企画センター ミーティングルーム

内容 上記の授業を参観後、当該授業に対する懇談を行う

*ベストティーチャー賞受賞者地域教育文化学部
竹田隆一教授及びベストティーチャー新人賞受賞
者人文学部森田光宏講師の公開授業は授業日程の
関係上、来年度前期に行います。



みなさまの参観をお待ちしております!

主催：山形大学高等教育研究企画センター・山形大学教育方法等改善委員会

お問い合わせ：山形大学高等教育研究企画センター（023-628-4707）